

子ども医療費助成の交付金化、対応については慎重に検討

村山市長が12月議会で答弁

上越市議会における子ども医療費助成と介護保険に関する質疑の最新の情報をお伝えします。いずれも日本共産党議員団の平良木哲也議員の一般質問のなかで明らかにしたものです。

まず、子ども医療費助成をめぐる質疑からです。既報の通り、新潟県は子ども医療費助成について、2016年度から子育て支援に広く活用できる交付金化を考えています。

平良木議員は、「県は、市町村に対する子ども医療費助成事業の交付金化に向け、制度案の概要を公表したが、市としてどのような具体化する考えか」と市長に質問しました。

答弁の中で市長は、「県から示された交付金化の概要では、平成28年度の交付金額は、平成27年度に県から各市町村へ補助金として支出される額より充実するとされているが、交付金額等の詳細については、県の平成28年度当初予算編成作業を経て決定されるので、

細を見極めるとともに、他市の動向も注視しながら、慎重に検討すべきものと考えています」とのべています。

なお、医療費助成の対象を高校卒業まで広げた場合の必要経費について、「高校卒業まで拡充した場合は、5300人ほどが対象となり、新たに約7千万円の財源が必要」であることを明らかにしています。

介護保険料引き下げ、直接的な手は打たず、介護予防の効果待ち

次に介護保険料についてです。平良木議員は、「市の第1号被保険者の介護保険料は、月額額の基準額で6,358円と依然として高水準であり、負担軽減を求める声が市民から数多く出されている。一般会計からの繰り入れを含めて、何らかの手立てで引き下げるべきではないか」と質問しました。

これに対して市長は、「当市においては、法定外の一般会計からの繰り入れは行わないこととしている」「市としては、生活習慣病の発症や重症化を予防することで要介護状態になる人を減らしていく介護予防の取組を推進し、介護給付費を抑制することで介護保険料の抑制を図っていくことが目指すべきところと考えている」と答えました。

簡単に言えば、直接的に引き下げる手は打たず、介護予防の強化によって介護給付費、介護保険料の抑制効果を待つという姿勢です。介護予防の強化は当然のことですが、いま、介護保険料が高すぎて市民が困っているというのに、市がそれに応えないということではないのでしょうか。



牧区棚広付近にて3日に撮影しました。

現段階では、具体的な金額を算定できる内容を示さない。この状況から、助成対象の拡充については、交付金の詳細



【梅の花】これも暖冬のせいでしょう。わが家の庭にある梅の木の枝でも白い花が咲き始めました。ひよっとすると昨年の暮れ頃から咲いていたのかも知れませんが、梅の実のつきが悪くならなければいいのですが。



上の作品は市内寺在住のM君のもので、M君は小学校3年生ですが、こうした言葉と絵の組み合わせが得意で、「とても小学生の作品とは思えない」と評判です。

藤野衆院議員が新春の集いに参加
2月14日（吉川多目的集会場、午後1時開会）に予定されている「新春の集い」に日本共産党の藤野保史衆院議員が駆けつけてくれることが本決まりしました。同議員は原発問題のエキスパート（専門家）です。ご期待ください。

はしづめ法一の活動レポート

No.1740 2016.1.17
 発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見え方」はこちら


春よ来い

第三八八回

朝顔の種

うれしい出来事は突然やってくる喜びが大きくなります。正月も三が日が終わり、普通の生活が始まってまもなくでした。吉川区と頸城区の境に近いところで朝の挨拶をしているとき、ひとりの女性が車を降り、私のそばに歩いて来ました。

女性はT子さん、これまで何回か会っているものの、すぐに名前を思い出せません。そのことが私の顔に出ていたのでしょうかね、女性は先に名前を名乗り、「おばあちゃん、元気でいかったですか。これ、おばあちゃんに渡して下さい」と言っただけで小さなビニール袋を差し出しました。

ビニール袋には「朝顔の種」とサインペンか何かで書かれていて、中に数十個の黒い種が入っていました。たぶん、母が欲しいと言ったに違いないと思い、私はT子さんに「お礼を言ってお顔を種をいただき、防寒着のポケットにしまいました。そして、母が以前よりも物忘れが進んだことやめまいに苦しんだことを伝えると、「私んちもそうでした」と言われ、いくつか言葉交わしました。

朝の、あわただしい時間帯でのことでしたので、ほんの一分くらいしか話できませんでした。そして、朝顔の種をめぐって母とT子さんとの間でどんなことがあったのかを詳しく知りたいなと思いました。

家に戻った私はすぐにこのビニール袋をコタツに入っていた母に渡しました。母も最初、事情がよくわからなかったようです。「誰がくんだったか」と訊いてきました。T子さんのお店のことを話したら、ようやく少しづつ思い出してくれました。

母に「おまん、朝顔、いつ見てもらったか」と尋ねると、「きよんなだねかな。あこんちは、仕事場からちよっと奥へ入って行くと庭みたいなのが合ったがど。ほーしんと、そこにきれいな桃色の朝顔がぱーつと咲いていたがど」と答えました。母によると、朝顔は大きく広がっていて、咲いていた場所は少なくとも障子戸二枚分くらいの広さがあったようです。

咲いていた朝顔がよほど強く印象に残ったのでしよう、母は何度も「ほんとに見事だったがど」と言っていました。それにしても、種を分けてくださったのにはそれなりの理由があるはずですよ。

私から、「おまん、種、分けてくれないと言ったがど」と訊いたところ、母は、「まあ、きれいなが咲いてんがねと言ったら、こんだ、種やんでねと言いたがねかな。よく憶えていてくんだったもんだ」と答えました。

母の言っていることが正確かどうかはわかりませんが、見事に咲いた朝顔を母が気に入ったことだけは確かです。その母の気持ちをちゃんと受け止めて、忘れずにいてくださったT子さんには頭が下がります。母は思いがけないプレゼントをもらい、大喜びでした。

母は今年、わが家でも朝顔を咲かせようとしています。高齢ですから、何かから何まで自力ではできないでしょう。ヒモや縄を張るくらいのは私も手伝いたいと思います。これまで母は「赤飯をつくって孫夫婦に持たせよう」など、目標を持つことで元気に生きてきました。今回も、お盆にひ孫がきたら、朝顔を見せたいと思っているのかも知れません。

若い力とベテランの技が発揮された川谷冬まつり

吉川区川谷地区で毎年行われている川谷冬まつり、2年ぶりに参加してきました。

今回は38回目、最初、参加者が少ないのかなと思っていたら、その

後、どんどん増えて50人前後にもなりました。Mさんなど何人かの見慣れた顔が見えなくて、ちよっとさみしい思いがしましたが、うれしいことに若い人の参加がぐんと増えましたね。法政大学の学生さんやOBのみなさん、棚田オーナーのみなさんなども、いつものように参加してくださいました。

体育館での顔合わせでは、大根と人参のなます、ひたし豆などの郷土料理が次々と出されました。3人が杵を持ち、餅つきをする三本搗の後継者も育っているようです。ここで作られた雑煮はおいしく、おかわりをしてしまいました。

雪上運動会では、雪積み、宝探しレース、鈴割り、じゃんけんゲームなどを楽しみました。単純な競技なのに、みんな張り切り、大笑いして、バカ騒ぎしました。

最後はサイの神。今年のサイの神は燃え方が迫力満点で、すごかったです。一気に炎が下か

ら上へとあがり、見ていた人は誰もが「すごい」「きれいだね」などの声をあげていました。

主催者代表の松浦さんが挨拶で指摘されていましたが、全体として、若い力とベテランの技がお互いによく作用して、それぞれがとてもいい役割を果たしているまつりになっていました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月6日(水)	1月13日(水)
上越南消防署	0.047	0.040
上越北消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.043	0.043
頸北消防署	0.053	0.047
頸南消防署	0.053	0.043
東頸消防署	0.060	0.050
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.053